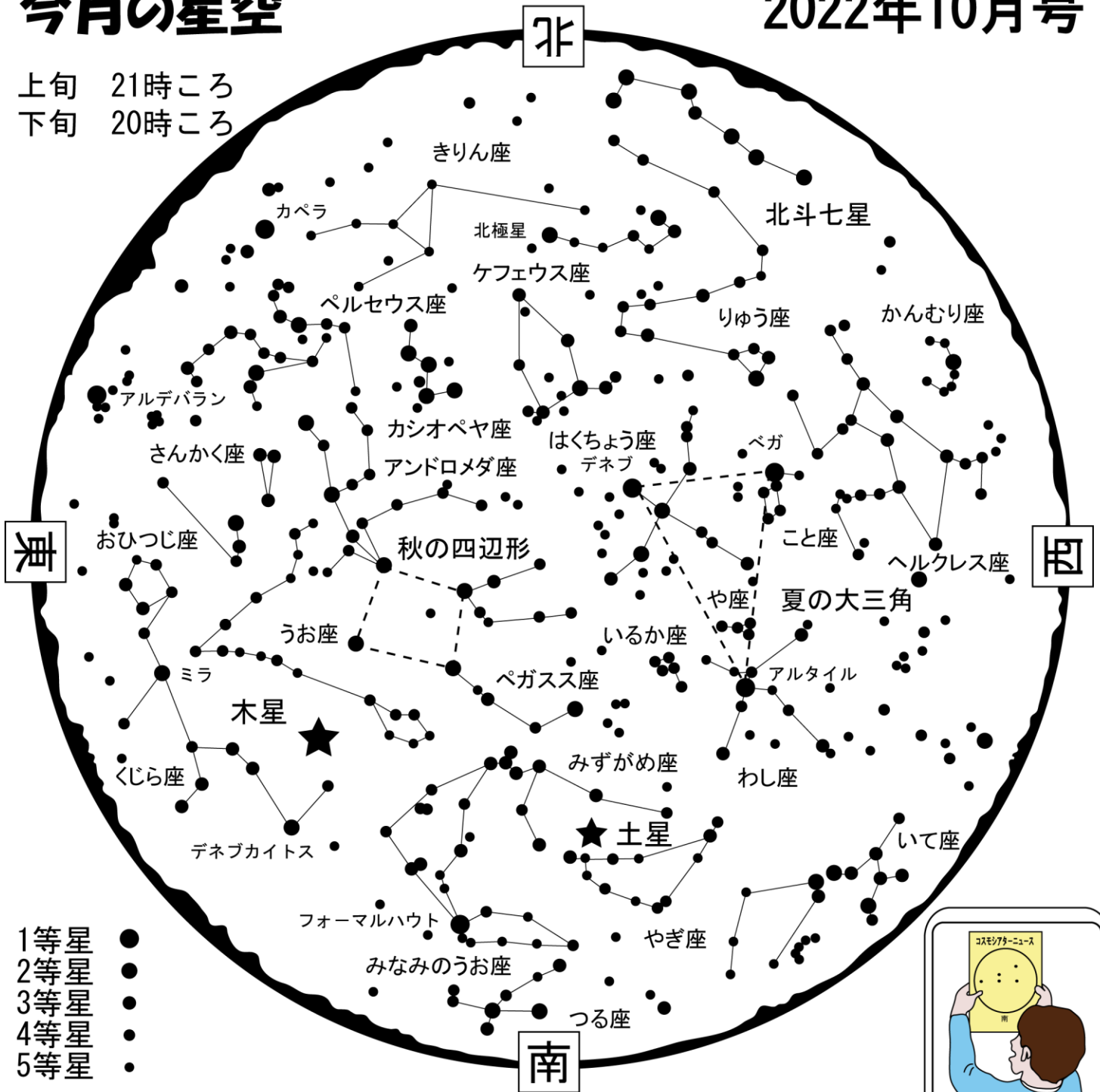


# コスモシアターニュース

## 今月の星空

2022年10月号

上旬 21時ころ  
下旬 20時ころ



水星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しい。  
金星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しい。  
火星：深夜の東の空に見えます。明るさは0等星です。15日の深夜、月と並んで輝きます。  
木星：夕方東の空に見え、ほぼ一晩中見える。明るさは-3等星です。8日に月と並んで輝きます。  
土星：夕方南の空に輝き、真夜中すぎに沈みます。明るさは0.5等星です。



### 今月の月の満ち欠け

上弦：3日(月) 満月：10日(月) 下弦：18日(火) 新月：25日(火)

## 8日(土)、東の空で、月と木星が並んで輝く

8日(土)の18時半ころ、ほぼまん丸の明るい月が、東の空に輝いています。そして、月のすぐ左を見ると、明るく輝く星が目についてきます。この明るい星が木星です。木星は大変明るいので、月の輝きにも負けません。

ところで、この日の月は、旧暦の9月13日の月です。この日の月を、栗名月や後の月など、昔から注目されてきました。今年、木星も加わり、より美しい月となるでしょう。見ごろは、少し空が暗くなる19時ころがいいでしょう。ぜひ、東の空に注目してください。なお、9日(日)の夜は、月が木星の左下に移動しますが、近い状態は続きます。

## 15日(土)、深夜の東の空で、月と火星が並んで輝く

15日(土)の21時半ころ、ほぼ半分欠けた月が東の空に昇ってきます。そして、月のすぐ右側に並んでオレンジ色の星が、昇ってきます。この星が、火星です。火星は、-1等星でかなり明るいので、肉眼でもよく見えるでしょう。なお、火星の右側にもオレンジ色の星があります。これは、おうし座のアルデバランです。火星より少し暗いのですが、肉眼でもよく見えます。なお見やすいのは、火星の高さが高くなる、22時以降になります。

## 22日(土)、明け方、オリオン座流星群が極大

21日(金)~22日(土)の明け方、オリオン座流星群が極大を迎えます。流星群の流星は、彗星がまき散らしたチリが地球に飛び込んでくる時に光って見えるものです。この流星群は、有名なハレー彗星がまき散らしたチリが元となっています。このため、毎年安定した数の流星が見られます。オリオン座流星群は、流れるスピードが速いのが特徴です。ただ明るい流星があまりなく、2等~3等星くらいの流星が多くなる傾向があります。

極大を迎えるのは、22日の午前3時ころです。オリオン座流星群は、オリオン座が昇るまでは流星は見られません。また、オリオン座は21日の22時くらいに東の空から昇ってくるのですが、オリオン座が低い時には、あまり見ることはできません。

このため、多くなるのは、21日の深夜から、22日の明け方近くになってからでしょう。なお、この流星群は、極大のころが長く、20日~25日くらいまで続きます。よって、必ず21日深夜から22日の明け方に見なくても、他の近くの日でも見ることはできるのです。

なお、今年は、月明かりがなく絶好の条件です。このため、実際に見える数は、空の条件の良い郊外で1時間あたり10個以上。松山市内では、1時間あたり5個程度は見えますでしょう。明け方は、冷え込む時期ですので注意してご覧下さい。

## 秋の星を見つけよう

右の図のように、秋の四辺形を使うと見つけることができます。時刻は、10月上旬の22時ころ、下旬ですと21時ころです。そして、見る方向は、南の空を見た時の様子です。右が西、左が東、下が南で上が北になります。

秋の星の調べ方ですが、たとえば、秋の四辺形の右側の辺を結んで、南側に伸ばすとフォーマルハウトが見つかります。この星は、秋の星座の中でただひとつの1等星で、秋のひとつ星や南のひとつ星と呼ばれます。今年、フォーマルハウトの西側のやぎ座に土星が輝き、いつもとは違った姿になっています。

また、左側の辺を結んで、同じように南側に伸ばすと、大変明るい木星にたどり着きます。さらに、南に進むと、くじら座のデネブカイトスにたどり着きます。

いっぽう、左側の辺を結んで北に伸ばすと、カシオペヤ座(となりにケフェウス座があります)をとおり、北極星へたどり着きます。

このころ、秋の四辺形は、ほぼ頭の真上に輝いています。まず頭の真上を見上げて、四辺形を見つけ、秋の星座たちを見つけてみてください。

なお、10月は10日が満月になります。満月のころは、月が明るく星が見にくいことがあります。星座を見つけるには、初旬か後半がいいでしょう。

